

学校名 : 兵庫県立芦屋国際中等教育学校
担当教科 : 英語
氏名 : 貞松 千佳子

1 海外研修について

(1) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)

① ゲシアン村でのホームビジット

⇒本当に快く受け入れてくれた。インドネシア語で必死に話そうとしている私の言いたいことを必死で分かろうとしてくれた。

② ワテス国立第一中学校訪問

⇒やはり中学校の教師なので、同年代の現地の子供たちの学校生活を見学し、少しではあったが会話ができたのが良かった。

③ HIMMATA(スラム街で活動している現地NGOプロジェクト現場)訪問

⇒経済格差が非常に大きいということを本当に実感できた。どんな環境であれ、他国から来た私たちを心から歓迎してくれ、歌を歌ってくれたことに非常に感動した。

(2) 収集した資料/教材について

- ・写真(訪問した地域・地区の様子、小学校・中学校の様子、人々の生活(衣、食、住)、伝統文化)、動画(道路が渋滞している様子)
- ・中学校2年生の英語と数学の教科書、小・中学生が使っているノートと鉛筆
- ・パティックの服、ろうけつ染め用の容器
- ・小・中学生が休み時間等に食べているお菓子
- ・ジルバブ、イスラム教の教えの絵本、ハラルマークのついた食べ物

(3) 授業/学校生活への活用について

まずは、インドネシアの人々の暮らしを知り、身近に感じてほしい。上記の収集した資料、教材を使い、インドネシアの人々の生活、現地の小学校・中学校生活、イスラム教、伝統文化に触れさせたい。それらに触れる中で、日本との共通点・相違点をみつけさせたい。

次に、首都や都市、村、スラム地区の写真を使って、インドネシアでは経済格差が非常に大きいということを実感させたい。フォトランゲージの開発教育の手法を用い、それぞれの写真を見て思うことを書きださせ、発表させる。そして今後インドネシアがどのように発展してほしいか、自分ならどうしたいか自分なりに考え、班で話し合う。

また、貧しい環境で生活をしていても、他国から来た私たちを快く受け入れてくれ、力強く元気に明るく協力し合っていることを知り、貧しい=不幸せでは決してない、本当の幸せとは何か、改めて考えさせるとともに、今感じる自分の幸せに感謝する心を持たせる。

更に、貧しい地域の人々の絵本がほしいという願いに応じて、既製の絵本ではなく自分でアイデアを考え絵本を作らせてみたい。生徒達がインドネシアの子供たちとのつながりを感じられるような活動にしたい。

(4) 研修に関する全般的な所感/意見について

今回の研修では、自分一人の観光では決して訪れることのできない場所を視察できた。また、現地でお世話になった通訳の方々も本当に熱心に私たちの質問にも答えてくれ、私自身にとってこの研修は本当に貴重なものとなった。現地の人々と直接交流する中で、今後も世界に目を向け様々なことを学び続けたいと強く感じる事ができた。本当にありがとうございました。

2 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

(1) 事前研修

- ・日本文化紹介等の出し物の練習は派遣前研修(第2回事前研修)で良かった。
- ・持ち物の面では細かい質問が色々浮かび上がってきて、第2回事前研修ではもう荷物を持つ

ていかないといけないので、少し悪戦苦闘しました。しかし、メーリングリストがあったので助かりました。

(2) 海外研修について

- ・観光では決して行けない所を訪問・視察できて、本当に貴重な体験ができ、勉強になった。現地では通訳もつけてもらい、現地の方との通訳だけでなく、私たちが休む暇もなく投げかける質問にもテキパキ答えてもらい、本当に勉強になった。
- ・ハードスケジュールと慣れない環境・食事から体調を壊してしまう人もたくさんでしたが、可能な限り教師海外研修は続けていっていただきたい。
- ・同行の二人が、「授業のことを考えて買い物を！」「授業のことを考えて写真を！」「ここで、何を感じて、何を子どもたちに伝えたいか！」「何を使って何を子どもたちに伝えたいか！」と常に言い続けてくれたので、しんどかったけれど、何のために来ているかを忘れることなく最後まで頑張れた。

(3) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・体調だけは気をつけて、元気にいろいろなことにチャレンジしてほしいと思う。
- ・一緒に行く先生方の専門性や個性を生かして、忘れられない貴重な研修をつくりあげてほしい。
- ・自分が感動したことは、子どもたちにも熱く語れると思う。
- ・失敗したり、授業の組み立てに悪戦苦闘したが、私は自分の授業を実践して良かったと思える。頑張ってください。

3 各訪問先の所感

| 日時 | 訪問先 | 発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感 |
|-------|----------------------|--|
| 7月31日 | JICAインドネシア事務所 | インドネシア事務所は1969年にスタートし、世界のJICA事務所の中で一番古い。支援もハード面（技術移転）からソフト面（内面・考え方に関する教育、相手国を理解した上で情報を伝達する）に変わってきている。これからは日本のスタッフを日本に帰し、インドネシアのスタッフに任せていく時期であるということを知った。 |
| | インドネシア大学 日本研究センター | 高等教育を受けることができるほどの高収入家庭であり、なおかつ教養のある学生と交流でき、勉強になった。母語、英語に加え、日本語もうまく、研究意欲が高かった。一番、印象に残っているのは、大学の女性教授が言った以下の言葉である。「日本は男女平等と言っているけれど、結婚し仕事を持つ女性はすべての仕事を女性がしている。それは男女平等ではない。まだまだ結婚し子供を持つ女性が働きにくい社会だと思う。」日本をよく見ているなと思った。 |
| 8月1日 | 生物学研究センター | 動植物の標本の多さには非常に驚いた。世界的レベルの価値があるのがよく分かった。このようなプロジェクトに日本が援助をし、また日本の大学と共同で研究しているということにも驚き、よい勉強になった。 |
| | ストリートチルドレン 更正施設 | 子供の考えや行動を変える（路上に出てお金をもらっていただけだったが、お金を得るためには、何らかのことで得ないといけないという考え）のは難しかったというのは非常に共感できた。子どもたちは尊敬できる人を求めて路上に出ていく、だからまずは子どもたちにとって尊敬される存在にならないといけないと語る施設で働く人の熱い気持ちが伝わってきた。 |

| 日時 | 訪問先 | 発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感 |
|------|--------------------|--|
| 8月1日 | JICA関係者との 意見交換会 | インドネシアのトイレの話をつい人の経験談を交えながらたくさんお話しして下さったのは面白かった。トイレ事情も日本とインドネシアの文化の違いの大きな一つだと改めて感じた。また、インドネシアの教育は詰め込み式になってしまっているというのには驚いたと同時に、日本も同じ問題を抱えている面もあるなと思った。 |
| 8月2日 | インドネシア語教室 | 久しぶりに言語習得の苦しみを味わった。脳が思うように動かないという感覚を味わえてとても新鮮だった。もっとインドネシア語を学びたいという気持ちになった。 |
| | ホームステイ | 私のステイ先は上流階級の家であった。立派な家に住んでおり、ホームステイを生計手段のひとつにしており、1度に12人が宿泊できる部屋がある。私が宿泊した時もいろいろな国からスタディツアーに来ている学生が宿泊していたが、こんなにもたくさんの学生がインドネシアに関心を持っているということに驚いた。ホストのお父さんの夢「インドネシアは安全ではないからインドネシアを好きでない人は他国にはたくさんいる。インドネシアを平和な国にして、世界中の人にインドネシアに来てほしい。」という言葉には心打たれた。 |
| 8月3日 | 文化体験教室 「ガムラン音楽」 | ガムラン音楽を見て聞くだけでなく、実際に体験し、パートに分かれて合わせられたのは非常に良かった。もともと音楽は好きなのでしっかり楽しめた。時間が経つのが早かった。 |
| | 市場見学・書店 | 市場の狭さ、人の多さには驚いた。神戸三宮の高架下ぐらいの道幅を想像していたので、驚きだった。あれではスリも出るし、やりやすいだろうなと思った。市場の2階は、野菜や果物を売っていたが、現地の市場だと思わせる感じで、想像どおりで見ることができて良かった。 |
| 8月4日 | ゲシアン村小学校 日本文化紹介 | 学校訪問が一番楽しみにしていたので、子どもたちの人なつこさ・笑顔を見ると、こちらも非常に楽しい気持ちになった。日本文化紹介の方法に反省点はあったものの、可能な限り私たちが打ち合わせ・練習をしていけて良かったと思う。子どもたちのはしゃぎようは、本当に小学校独特のものだなと、どの国も同じだなと改めて感じる事ができた。 |
| | ホームビジット | 短い時間でしたが、私にとっては本当に忘れられない、言葉以上に心で交流をはかることができたなと感じられるひと時だった。そう感じられたのも、相手（ホームビジットのお母さん）が快く私を受け入れてくれ、私の拙いインドネシア語を理解しよう、私が何を言いたいのか理解しようとして一生懸命になってくれたからだ。嬉しかったし、なんとか相手に伝えたい、相手と会話したいという強い気持ちが生まれてきた。コミュニケーションには相手を分かろう、分かりたいという気持ちが大切なのだという事を改めて実感できた。 |

| 日時 | 訪問先 | 発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感 |
|------|-------------------|---|
| 8月4日 | サイエンスカフェ | 京都大学の大学院がこのような形でインドネシアのゲシアン村で防災教育を行っていることに感心させられた。子どもたちが楽しみながらも何か学びとってってくれればと願う。今後もこのプログラムが続き、防災教育を行う中で村の人たちの絆がより深まり、また日本の人たちとの交流が深まることを願います。 |
| | JICAボランティアとの意見交換会 | 協力隊員の方々の、思うようにはうまくいかないが、自分なりの目標を持って頑張っている姿に感動した。“国際協力”の難しさも感じつつ、“自分なりの協力”を模索して焦らず着実に取り組んでいる姿は素敵でした。料理隊員が活動する現場（調理場）は想像以上に清潔ではないんだろうなと思ってしまった。 |
| 8月5日 | ワテス国立第1中学校 | 生徒たちはみんなにこやかに私たちを迎えてくれた。休み時間に何人かの男子生徒と話をしたが、テレビで日本のアニメを見ていたり、休み時間は友達としゃべって楽しんだり、女の子に興味をもっていたり、日本の中学生と全然かわらないなと思った。鈴木隊員の授業が見られなかったのが残念。 |
| | スポーツ青年局 | 言葉での交流、音楽を通しての交流、そして共に体を動かしての交流もできて良かった。私たちに点を取られると悔しい顔を見せ、バレーボールに一生懸命取り組んでいるのだなというのがよく伝わってきた。協力隊員の苦勞を知っても何も支援することができず申し訳ない気持ちだったが、バレーボールに打ち込む彼女たちが、あのひと時だけでも他国の人と一緒に汗を流すことを楽しんでくれていたなら嬉しく思う。 |
| 8月6日 | ボロブドゥール遺跡 | 面白く変わった通訳ではあったが、ガイドさんのおかげで、ボロブドゥールの歴史や意味がよく分かりました。日の出を見られなかったのは残念でしたが、早朝に行ったのは正解だったと思う。 |
| 8月7日 | インドネシア事務所報告会 | テーマに沿って（①インドネシアと日本の共通点と相違点、②研修を通して気づいたこと・学んだこと、③日本の子どもたちに伝えたいこと）7人で話し合い、意見を共有できたことは今後の授業実践の案を考えるのに役立った。また、所長が「日本の学校では、肌の色の違いでいじめがあったり、差別がまだまだある。それをぜひ改善して欲しい」とおっしゃったのが非常に心に響いた。芦屋国際中等という学校があることで、心の居場所を見つけられている子どもたちはたくさんいるけれど、どんな子でも地元の公立学校でも居場所が見つけられるように人権教育に力を入れていかなければならないなと感じた。 |
| | HIMMATAの学校・寮 | 住んでいる場所・家は立派とはいえないが、どんな環境で生活していようと他国から来た私たちを快く受け入れてくれ、笑顔で挨拶をしてくれ、心のこもった歌で私たちを歓迎してくれた。感動したと同時に、「貧しい＝不幸せ」ではない、本当の幸せとは何だろう、と改めて考えさせられた。自分の夢をしっかりと持ち、自分の宝物は“知識”であると真剣な目で答えてくれた女の子の顔が焼きついている。インドネシアでは経済格差が非常に大きいですが、どんな環境で生活していても、力強く生きている姿を日本の私の生徒たちにしっかりと伝えたい。 |

学校名 : 尼崎市立成良中学校
 担当教科 : 保健体育
 氏名 : 竹岡 聡子

1 海外研修について

(1) 良かったと感じた(期待に応えた)海外研修の内容について(上位3つ)

- ① HIMMATA(スラム街で活動している現地NGOプロジェクト活動現場)訪問
⇒いろんなことが凝縮されているように思えた。一番感動した。
- ② スポーツ青年局(バレーボールチーム)訪問
⇒自分と担当教科が同じで、色々なことがイメージしやすく、共感しやすかった。
- ③ ゲシアン村でのホームビジット
⇒インドネシア語でのコミュニケーションが大変だったが、見る物、聞く物すべてが楽しい発見だった。

(2) 収集した資料/教材について

- ・写真、動画
- ・体育の教科書、はがき、雑誌
- ・伝統的な物(「衣服」など)

(3) 授業/学校生活への活用について

- ・道徳教育や総合的な学習での環境学習、保健体育教科の保健分野につながるような授業展開がしたい。
- ・「生きること」「幸せ」とは何なのか。自分自身を見直し、周囲の人々に優しくなれるようにさせたい。

上記のことを、収集した資料や共通の情報を使って授業展開する。

(4) 研修に関する全般的な所感/意見について

校種や教科の違う参加者が、長期の泊を共にするなかで学びを得るには、興味や関心・目的の相違から大変難しいことだと思っていた。しかし、違うからこそ深い学びがあり、多角的に物事を見ていこうとするようになれた。研修中あらゆるところで出てきた話で、インドネシア人は多民族で「他を受け入れる」から…という言葉があったが、私たちはこの研修で、互いを受け入れ支え合うことを自然と学んでいたように思う。それにより、見えなかった物が見え、物事がまっすぐではないが進んでいったのではないか。教育現場で、仲間と協力することの大切さや他を受け入れることの必要性を今までも指導してきたが、これからは心から伝えることができると思う。

たくさん学びが得られたこの出会いに心から感謝しています。

2 来年度研修へ向けて ~さらに充実した研修のために~

(1) 事前研修

- ・事前研修をあと1、2回増やしてほしかった。
- ・第1回の研修の時期を早めてほしかった。
- ・時期的に7月のはじめでも、期末処理で忙しい時期なので、各自で勉強するにしても時間がなかった。第1回で研修後、各自で勉強したことを第2回に持ち寄り、参加者同士で話をする機会があればイメージが広がったし、校種や教科が違ってても互いを理解してから海外研修に臨めるので、より能率的で効果的な海外研修になったと思う。
- ・語学研修の時間があたら良かった。
- ・実際行った研修内容については、授業に役立てることができるので大変勉強になった。

(2) 海外研修について

- ・日本で研修を受けているだけでは、インドネシアの概要から研修での研究内容など学んだことや考えることがたくさんあり、なかなか整理できなかったが、現地で体験することでどんどん疑問や考えが膨らんでいき、振り返りを行うことで更に深まった。
- ・研修過程において具体化されてきた私たちのあらゆる要望をうまく取り上げ、反映してくださったことで、参加者の研修への意欲が高まり、内容も深められたと思うが、各自で振り返り時間がほしかった。
- ・JICA事業の視察が多かったが、大変貴重な体験ばかりで、日常の自分自身の生活や教育活動につながっていて、充実した内容であった。
- ・参加者の興味・関心が違うので、それぞれが研修に夢中になり、後の予定がおしてしまったことが多く、いろんなことに影響したと思う。もう少し時間の余裕があれば良かったと思う。
- ・校種や教科が違うメンバーで話し合うことが、今までにない発見につながり大変有意義なものになった。

(3) 今後の本研修参加者へのアドバイス

- ・事前に国の概要から研究内容に関することを学習しておく
- ・何について知りたいのかできるだけ明確にしておく。
- ・語学を学んでおく。
- ・研修中は、毎日各自でまとめておく。
- ・映像を見たままにとる。(何が必要かは授業案をたてる段階に変更することがある)
- ・同行者のアドバイスは、聞き流さず小さなことでも質問して、実践していく。
- ・旅行者でなく、視察に来ていることを忘れない。
- ・訪問中は、日本人としてみられるので、自身の言動を注意する。

3 各訪問先の所感

| 日時 | 訪問先 | 発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感 |
|-------|----------------------|--|
| 7月31日 | JICAインドネシア事務所 | インドネシアの概要を多角的にお話し頂けた。特に「宗教（イスラム教）の視点でものを見ること」「日本との比較（異なるものと同じもの）」「人がつながるにはどうすればよいか」の3点が心に残った。私自身が探していた研究課題に近い題材であったので、非常にためになるお話だった。 |
| | インドネシア大学 日本研究センター | 日本の国際協力を教育という観点から支援されている現状や内容・課題について講話していただき、大学構内を視察できた。プロジェクトを進める中で、インドネシアの文化や人々の価値観などが密接に絡んでいることを感じた。 インドネシアからみた日本について、お話を聞くことができ、自分自身の考えや生き方、周りの人々、日本の教育の現状についてなど改めて見直すことができた。 |
| 8月1日 | 生物学研究センター | インドネシアには世界の20%もの野生生物が生息している。それは大変価値ある地球の財産であることを感じた。 インドネシアの一つの誇りとして取り組んでいるが、その活動の大変さも講話や視察で感じた。 |
| | ストリートチルドレン 更正施設 | ストリートチルドレンを生み出してしまう社会的状況や家族の在り方・考え方、貧困層の生活や人生観などが、講話から学ぶことができた。このような社会的流れから一人でも多くの子どもたちを支援して自立させようと活動されていることに感心した。この施設で活動している子どもたちの様子は、毎日の生活に不満もなく、自分自身をよりよくさせ、前向きに生きていこうとしている力強い姿に見えた。「本当の幸せ」ということが少し見えた気がした。 |

| 日時 | 訪問先 | 発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感 |
|------|--------------------|--|
| 8月1日 | JICA関係者との意見交換会 | インドネシアの生活の様子をお話し頂き、「水が大切であること」を痛感した。日本の生活で当たり前に行っていたことが、地球資源について何も考えていない行動だったと感じた。もっと身近なことから地球のことを考えなければならないと思った。 JICAの援助が終わっても現地の人々自身による資金の確保の手段として、生物学研究センターグッズの考案をされていた。センターのプロジェクトの意義の深さや大きさを理解し、それに対する熱い思いと誇りを持っていることを感じた。 |
| 8月2日 | インドネシア語教室 | 挨拶の言葉も分からない国でコミュニケーションをとることの難しさを痛感した。 来日した諸外国の人々が、言葉の通じない中で生活する大変さや苦悩が少し理解できた。本校の昨年度中国からの転入生の心情はどうだったか考えさせられた。 |
| | ホームステイ | 想像と違い、たくさんの留学生を受け入れていた。キリスト教であり、毎日の習慣の「教会で祈る」ことに同行できた。イスラム教を信仰する人々が多いインドネシアで信仰し続ける大変さや、信仰宗教を重んずる気持ちを垣間見ることができた。教会の前での主婦同士の会話を間近に、日常の雰囲気を感じた。インドネシアの人々に親近感が湧いてきた。大変貴重な体験だった。 |
| 8月3日 | 文化体験教室 「ガムラン音楽」 | 地域の子どもたちが通いやすい施設で、たくさんの楽器があった。習得レベルに応じて、少しずつ高度な技術に取り入れていたようで、楽しみながら学ぶことができた。 地域の子どもたち3人も手伝いに来てくれており、音楽を通してコミュニケーションがとれているような気がした。 |
| | 市場見学・書店 | 市場の人の多さに驚いた。店も人もひしめき合っていて、周囲の状況を観察するのにひと苦労だった。人々の明るさや元気良さが印象的だった。市場には、いろいろなものが売られており、物価も大変安かった。 書店では、日本のそれと同じで、音楽CDやビデオなど流行ものも並べられていた。書籍はたくさんあり、教科に関するものを探してみたが、言葉が分からないためなかなか難しかった。 |
| 8月4日 | ゲシアン村小学校 日本文化紹介 | 教師同士の意見交換会は、短時間で的を絞った質問になったが、学校の現状を垣間見た気がした。 日本文化紹介は予想と違う状況であったが、どんな状況であっても、生徒の様子を観察しながら与えられた時間を展開していくという教師の力量が試される機会だったのかもしれない。隊員は教材を手作りで準備するにも日本のようにスムーズには行かないということだからだ。隊員の大変さを感じることができた。 |
| | ホームビジット | 何種類ものお菓子や料理を用意してくださっていて、大変感激した。数時間しか学べていないインドネシア語にじっくり付き合ってくれ、一生懸命返してくれる様子が嬉しかった。 話を聞いたり、一緒にご飯を食べたりする中で、生活の様子や家族の優しさを感じた。隣近所の人々も集まってきて、仲の良さも感じる。この人々の集まってその力が大きなパワーになると、いろんなことができるようになると思った。 |

| 日時 | 訪問先 | 発見したこと・学んだこと ⇒それを何につなげるか？／その他所感 |
|------|-------------------|--|
| 8月4日 | サイエンスカフェ | 子どもたちが自分の作品のことばかりに必死で、ゴミや友だちのことを考えていない様子も見られた。 防災拠点として仮設住宅を利用している。これまで見てきた村や町の建物が災害を経験しているにもかかわらず、それを意識した建物が新たに造られているわけではなかったことに気がついた。 改善には国や地方自治体レベルの問題もあり難しいことだろう。 災害による大きな被害が避けられない中「作ったロウソクで、災害時でも心を明るく持てるように」という狙い。 「草の根レベルだ」という意味がわかった気がした。 |
| | JICAボランティアとの意見交換会 | なぜ隊員に応募したのかという経緯から現場の状態を聞くことができた。支援の難しさを知り、それでも活動を続ける隊員の気持ちを知ることができた。支援することは相手に何かを求めてはいけないということだ。教育者として大切な心構えで、私自身を見直すことができた。 |
| 8月5日 | ワテス国立第1中学校 | 鈴木隊員の細かな活動が至る所にたくさん見られた。 一つの学校しか訪問していないが、インドネシアの中学校の様子を感じることができた。教育レベルが上がらないことの現実問題は、日本と同じように思えた。 インドネシアの生徒は、学習意欲が高く、努力しているとのことだ。日本の生徒を思い浮かべた。 |
| | スポーツ青年局 | 隊員との意見交換会で予めイメージしていたが、想像以上の劣悪な環境や運営状況を目にして活動の大変さを感じた。それでも頑張っている隊員に感動した。 |
| 8月6日 | ボロブドゥール遺跡 | 世界遺産を見ることができた。感動も味わえたが、そこにある問題も知ることができた。外国の文化遺産について、現地の人々の気持ちをガイドさんから知ることができ、研修前までは遠い国の問題のように思っていたことが身近に感じた。 このような学びが世界に広がれば、平和な社会や世界になり、そのためには教育が大切になる。教師が学ぶ必要性が分かった。 |
| 8月7日 | JICAインドネシア事務所報告会 | この数日間に見る物、聞く物、触る物すべてが情報で、たくさんありすぎて、自分自身が何を発見できたのか、学べたのか整理しきれない毎日だった。たくさんの情報を話し合うことで、整理することができた。確認しながら進めることで、他人と意見が同じことや違うことでさらに広がった。仲間と共に協力することの大切さを感じ、仲間を大切に思えた。最後の事務所の方々のお話が、31日に伺った時より、自分の頭でなく、体に入ってきたように思えた。体験学習の深さや大切さを実感した。 |
| | HIMMATAの学校・寮 | 劣悪な環境で生活している様子を目の当たりにし、悲しく痛ましく感じた。哀れみを思うことは大変失礼なことで、涙を流すことが本当は嫌でたまらなかったが、止めることができなかった。あれほど懸命に現実に目を背けず、現状に不満を感じていることもおくびにも出さず、明るく生きている姿には感動した。そこにいる誰もが命の限り生きていることを学んだ。私が流してしまった涙にみんなが疑問を感じていた。相手に不快感をあたえてしまったのではないだろうか。 何もできないことはなく、今を精一杯表現することのすばらしさを学べた。それは大変価値あることで、互いの生きる糧となることを学んだ。 |